

我が校の学力向上策

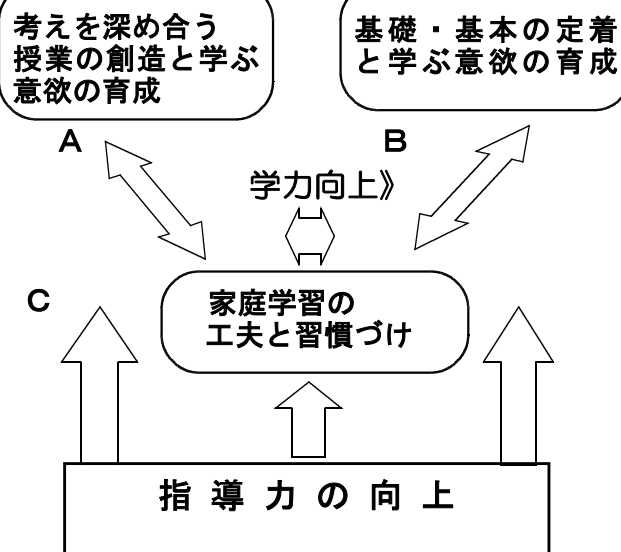
甲賀市立山内小学校

1. 本校の課題

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果分析より

- 国語科
 - ・漢字の書き取り等言語に関する知識は正答率が高いが、聞く・話す・記述するなど、書くことに弱さが見られる。
- 算数科
 - ・基本的な計算や数量関係に関する正答率が高いが、活用問題、領域では「量と測定」が弱い。
 - ・生活と結びつけて考えることが弱い。
- 学習における児童の実態
 - ・落ち着いた学習環境の中で、意欲的に取り組んでいる。
 - ・学習ルールの定着が一定進んできた（山内スタンダードの活用）
 - ・自分の思いや考えを進んで表現することが苦手である。
- 家庭学習の状況
 - ・家で宿題をしている児童は100%である。
 - ・家庭での読書は二極化。
 - ・テレビやゲームの時間が長い。
 - ・家族とともに自分の生活や将来について話すことが少ない。

2. 本校の「学力」のとらえ方



3. 学力向上へのアプローチ

(1) 「A」からのアプローチ

◎子どもたちが自ら考え、互いに学び合う授業の創造

- ・子どもの思いや発想を大切にした課題解決学習の工夫
- ・子どもたちの実態に沿ったきめ細やかな支援のあり方と活用力を伸ばす授業づくり
- ・予習や書く活動を生かした思いや考えを交流する話し合い学習
- ・めあてとふり返りによる学びづくり
- ・表現力と思考力を高めることができるノートづくりの工夫
- ・実生活における事象との関連を図った授業
- ・各教科における適切な言語活動の設定
- ・校内研究や各種研修を通して教師の指導力の向上

(2) 「B」からのアプローチ

- ・のびっこタイム（朝の学習）の定着と工夫
基本的な計算学習、漢字学習、読書に加えて、100ます計算や詩の暗唱
- ・子どもの発表の機会の設定
少人数を生かしたきめ細かな指導
- ・聞く、話す、書く等の基礎となる力を育成するための系統的な指導（山内スタンダードの定着）
- ・言語環境・学習環境の整備
- ・表現活動の場の工夫
- ・放課後学習の実施

(3) 「C」からのアプローチ

- ・家庭学習の習慣化
- ・テレビやゲームの時間の自己管理
- ・読書のすすめ
（PTAとの連携によるノーテレビ、ノーゲームデーの設定）
- ・自主学習のすすめ

<家庭学習の目安>

- 1・2年 [20分] 3・4年 [40分]
- 5・6年 [60分]

4. 指導目標

- ・自ら考え、主体的に学習に取り組む力を育てる。
- ・児童一人ひとりの基礎学力の定着を図る。

5. 学力向上策の評価・検証・見直し策定期

- ・児童・保護者アンケート、「学校評価」による検証（7月・12月）
- ・つまずきテストの活用(12月)、標準テストによる検証（2月）
- ・校内研究会、各部会（月1回）でそれぞれのアプローチの検証
- ・学力向上策の検討・修正（5月・10月）

